

文化財センター通信
【かぎぐるま】

風車

3

平成 14 年 1 月 1 日発行

発行：財団法人 和歌山県文化財センター

〒 640 - 8268 和歌山県和歌山市広道 20 番地
Tel : 073 (433) 3843 Fax : 073 (425) 4595



■ 北外郭部分 現地説明会 風景

主な内容

徳蔵地区遺跡（高田土居城跡）

現地説明会

コラム・考古学の散歩道

—徳蔵地区遺跡出土の

弥生時代前期の土器—

粉河寺大門の修理工事

お知らせのご案内

—第11回和歌山県文化財

センター速報展のご案内—

徳蔵地区遺跡（高田土居城跡）現地説明会

佐伯 和也

当センターでは、平成 9 年度の徳蔵地区遺跡発掘調査開始以来、調査の節目毎に、現地説明会を開催してきました。今号では、本年度の調査対照地である高田土居城跡について説明します。

調査の概略につきましては、先に『風車』第 1 号でも触れていますが、今回はその全容について紹介します。

7 月初旬から開始した発掘調査は、今なお継続中ですが、今回の発掘調査によって高田土居城跡の全体像をほぼ確認することが出来ました。その成果を多くの方に知っていただくために、晩秋の陽光麗らかなる 11 月 10 日（土）、現地説明会を南部町・南部川村との共催で開催し、おかげさまで約 300 人という多くの地元住民の皆様並びに、考古学ファンに見学していただくことが出来ました。以下、簡単ですが、高田土居城跡の紹介をします。

発掘調査は、内郭部の一部分と、北外郭部の一部分を実施しました。内郭部の調査では、二重



■ 内部部分 現地説明会 風景

の内堀に囲まれた本丸跡の一部を発掘調査しています。この部分については、現在も進行中です。調査が進むに従い層位的に覆土をはがしていきますと、先ず最初に高田土居城廃絶後の近世と考えられる鍛冶工房として使用されていたことが判明いたしました。次にこの下層で、高田土居の遺構面が検出されるのですが、中世水田をつぶして築いていることに先ず驚かされます。ここでは、土層の観察により、堀の内側に土塁が築かれていたことが判りました。またその内側、核となる本体部分には、無数の柱穴や土坑が検出されています。土坑の中には土師器皿が多量に埋ったもの、また埋納銭などの土坑も検出しています。

柱穴については、調査途中のため、未だ、その並びなどについては検討中であります。

北外郭部の調査は、既に平成10年度の調査において、東西方向の北辺の外堀2条を検出しています。本年度は、この堀の続きとして、東辺、南北方向の堀及び外郭の平坦地(居住区)を調査しました。この結果、城館と呼ぶにふさわしい遺構を多数検出しました。

外堀の北半部は、3重の堀がめぐり、途中内郭寄りで連結し、幅17メートルという大きな堀に様相を変えています。またこの連結部分には、橋脚が2列平行に3組計6本を、上方向をやや



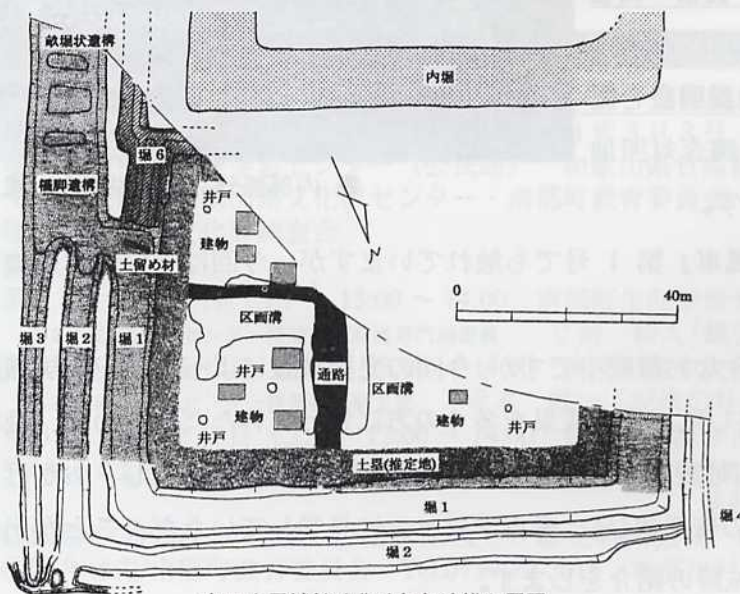
「ハ」の字状に打ち込んでいました。その南側堀底には、畝堀状の遺構を3箇所検出しました。

これらは、ある時期、政治的緊張関係が要因となり、内郭の外堀(堀6)を埋めて、直角に南方向に突き出した、いわゆる「横矢掛け」の施設と考えられます。また、堀に沿って、内側には幅6メートルの範囲で、この城に伴う遺構が検出されないことから、土塁が築かれていた可能性が、考えられます。

この遺構検出状況を眺めると、居館ではなく、まさに城館と呼ぶにふさわしい雄大さに驚かされます。

平坦地部分は、区画溝で区切られ、北外郭部分では4区画の屋敷地があったと推定できます。この区画溝に沿って、屋敷地内の通路も十字状にあったことが判りました。

特に内郭部につながっていたと考えられる南北方向の通路は、幅5～7メートルを測る広いものです。屋



高田土居城館跡北外郭部遺構配置図

敷地の各々には大小の掘立柱建物・石積み井戸がセットで検出されました。

出土遺物は時期的にほぼ 15 世紀後半から 16 世紀中頃に納まるものと考えられます。遺物には備前焼・土師器皿・土師質焙烙・中国製青磁碗・美濃瀬戸灰釉・瓦質土器・漆器等があります。この中でも、土師器皿、中国製青磁碗、備前焼播鉢が目立って多い事が、特徴の一つとしてあげることが出来ます。中国製磁器についてはこの時期一般的である染付皿・白磁皿が全くといっていいほど出土しないのも疑問点の一つと言えます。このことについては、交易ルート、また、高田土居の居館から城館へとといった性格的な変貌と何らかの因果関係があるのか、今後の問題点の一つとして取り上げることが出来ます。

また遺構の詳細な時期については今後の課題であります。

以上が概要ですが、見学者の中には感嘆の声を抑えきれない人も数少なくありませんでした。たいていの方は堀幅の広さに目を奪われ、地元の人々は「ここにこがな大きな堀があったとな！」と口々に言っていました。これを機会として、地域住民の方々の文化財に対する興味・関心がさらに高まることを、願ってなりません。

コラム・考古学の散歩道

徳蔵地区遺跡出土の弥生時代前期の土器

土井 孝之

弥生時代になると前段階の縄文土器とは作り方も形も少し違う弥生土器が現れます。この弥生時代、大陸から水稻技術、農耕具などを携えた人々の流れによって、縄文時代の社会に対して大きな変動の原動力となります。

最初の頃の弥生土器の中には、主に食物を貯える壺（形土器）、食物を煮炊きする甕（形土器）、食物を盛る高杯（形土器）、いろいろな物を入れる鉢（形土器）などがあります。南部町と南部川村にまたがる徳蔵地区遺跡では、和歌山の弥生時代の中で最も古い弥生土器の壺と甕が出土しています。写真に見るように、壺は、頸から肩の部分に篋で描いた単純な直線様の文様があります。甕は、壺と同じように単純な直線様の文様と口の部分に篋で刻んだ文様があります。別の遺跡からは、木葉の文様を描いた土器や細い粘土紐を貼り付けた土器も出土します。残念ながら徳蔵地区遺跡では、高杯と鉢が分かっていません。

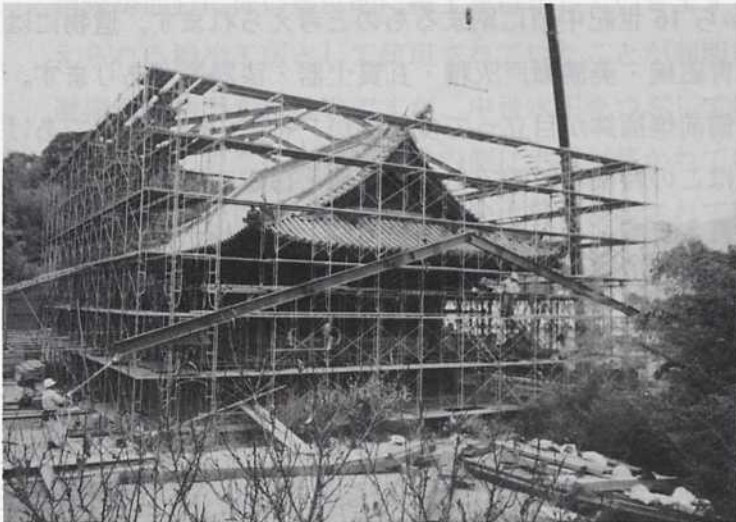
その後の弥生時代中期に進むにつれ、いろんな形の弥生土器に多くの文様が施されるようになり、時代の豊かさを感じさせるものとなります。今、この段階のものではっきりしているのは南部高校のある片山遺跡で出土している弥生土器ぐらいですが、調査が進むと徳蔵地区遺跡周辺でも発見されるかもしれません。



■ 出土した壺（写真左）と甕（写真右）

重要文化財 粉河寺大門の修理工事

鳴海 祥博



■ 仮設素屋根解体の状況



■ 大門全景（正面より見る）

先月に引き続き、重要文化財粉河寺大門修理工事の報告をします。

大門は、仮設素屋根の解体を始めました。完成したばかりの大門にぶつけないよう、慎重に解体します。

こうして約3年振りに再び姿を現した大門は、修理前と異なり、全面に赤い弁柄塗りが施されています。

もともと大門は弁柄塗りであることが調査でわかりましたが、風雨に曝されるうちに塗装が剥がれ、素木に近い状態になっていました。そこで天井板や軒裏に残る赤い塗料を集め、科学的な分析を行ったところ、顔料には鉄分を主体とする弁柄が、溶剤には動物性の膠（にかわ）が使われていたことが判明しました。今回の修理に当たっては、材料はもちろん、仕上がりの色合いも300年前と同じになるよう施工しています。

カラーでお届けできないのが残念です。ぜひ一度ご覧下さい。

お知らせとご案内

「紀州の歩み」 第11回和歌山県文化財センター速報展・第4回巡回展のご案内

期間／平成14年2月18日（月）～平成14年3月3日（日）

場所／南部町生涯学習センター（公民館） 和歌山県日高郡南部町芝530 Tel.0739-72-1400

主催／（財）和歌山県文化財センター・南部町教育委員会・南部川村教育委員会

後援／御坊市文化財調査会

講座

第1回 2月2日（土） 13:00～14:00 南部町生涯学習センター（公民館）

和歌山県文化財センター埋蔵文化財課専門調査員 立岡 和人「縄文の精神世界－埋甕を中心として－」

第2回 2月16日（土） 13:00～14:00 南部川村中央公民館

和歌山県文化財センター建造物課副主査 寺本 就一「紀南の社寺建築について」

第3回 2月23日（土） 13:00～14:00 南部町生涯学習センター（公民館）

和歌山県文化財センター埋蔵文化財課課長補佐 渋谷 高秀「日高郡南部町・南部川村所在
徳蔵地区遺跡の調査成果について」

◎開館時間/9:00～17:00 ◎閉館日/なし ◎見学科/無料 ◎展示説明/事前にご相談下さい

◎問合せ先/南部町教育委員会 Tel.0739-72-2015 南部川村教育委員会 Tel.0739-74-2400

（編集後記）「紀州の歩み」展、期間中是非お越し下さい。講座もお聞き逃しなく。